

園内の門と石碑

偕楽園内には偕楽園の創建時からの歴史をうつしだすものが、古いものから新しいものまで数多く残されています。

門と石碑をめぐって、作った人々の思いや願いを読み解き、偕楽園と水戸の歴史を探ってみましょう。



① 好文亭表門



創建時に作られ偕楽園の正門に相当します。修理を重ねながら創建当初からの姿を保っています。黒色をしているため黒門ともいわれています。

② 御成門



明治23年(1890)に明治天皇が水戸に来られ、皇后が来園されました。その際この門が新設され正門として利用されました。門から好文亭まで御成道が作られましたが、この道は昭和33年に廃止されました。

③ 東門



明治6年(1873)偕楽園の東部に常磐神社が創建されたのち、このあたりから偕楽園に入っていました。昭和33年(1958年)空襲で焼失した好文亭を復元する際、現在の門が作られました。

⑤ 西門



平成19年に新設されました。茨城県立歴史館下の蓮池に通じています。

④ 南門



創建時には上の図のように千波湖に流れ込む桜川の北に舟小屋とともに建っていました。明治22年(1889)に鉄道線路がここを通るため門は取り壊されました。



現在の門は昭和33年に新築されたもので、踏切と南口が作られこの門から園に入りました。その後踏切が廃止され南側から入れなくなりました。平成16年に常磐線をまたいで梅桜橋が新設され南側の入口となりました。

① 偕楽園記の碑



偕楽園の由来や造園の趣旨などが記されています。自然の平石に徳川齊昭の書により刻ま

れています。天保10年(1839)建立

▶ p.6 ▶ p.12

④ 故茨城県参事関君遺徳碑



明治6~8年(1873~76)に茨城県の参事(知事)を勤めた関新平の遺徳をたたえる碑。

関は佐賀藩出身、短期間で交代した当時の茨城県知事の中で初めて実質的な行政成果をあげた人物として県民に慕われました。明治30年(1897)建立

⑦ 正岡子規の句碑



崖急に梅ことごとく斜めなり
明治の代表的俳人正岡子規が明治22年に水戸に友人菊池

謙二郎を訪ねた際詠んだ句。昭和28年建立、昭和36年現在地に移設。

② 菁莪遺徳碑



水戸藩士原忠寧の顕彰碑。原は大日本史の編纂に尽力し、次いで一橋慶喜(のちの

15代将軍徳川慶喜)の側近として奔走しますが、慶応3年(1867)に暗殺されました。菁莪は「人材を育てる」という意味があり、原が水戸で開いた家塾の名前です。明治30年(1897)建立

⑤ 儂湖暮雪の碑



儂湖とは千波湖のことで、徳川齊昭が選んだ水戸八景の一つである

ことを示す碑。このあたりから見る夕暮れの千波湖の雪景色は墨絵のような風情があることから、選ばれました。字は齊昭の書です。天保10年(1839)建立

⑧ 観梅碑



梅の季節の偕楽園を詠んだ漢詩を刻んだ碑。作と書は明治から大正時代の医者永坂周で、

書家としても有名です。大正4年(1915)建立

③ 二名匠碑



「水戸彫り」と呼ばれた彫金の名工二名(初代海野美盛と萩谷勝平)の技量をたたえた碑。

この技術が徳川齊昭の奨励によって発達したことを記しています。明治43年(1910)建立

⑥ 茨城百景偕楽園の碑



観光立県を目指した茨城県が昭和25年(1950)に県内の景勝地100カ所を選んだ「茨城

百景」に選定されたことを示す碑。他に市内6ヶ所が選ばれています。

⑨ 大日本史完成之地の碑



「大日本史」の編纂事業が明治39年(1906)にこの地にあった彰考館で完成したことを

記念して建てられた碑。彰考館は初め江戸の水戸藩邸内に置かれ、その後旧水戸城内に移されましたが、明治18年(1885)この地に移されました。▶ p.36